

第28回外務省政策会議 (概要記録)

日時：5月12日 午前8：00～9：00

(岡田大臣は途中退席)

場所：衆議院第2議員会館 第4会議室

出席議員の概数：15名程度

議題：

- (1) 連休中の政務三役の外国出張報告
- (2) その他

第1 外務省からの説明

1 岡田外務大臣の南アフリカ，タンザニア出張の報告【岡田外務大臣】

配付資料に沿って説明。

2 武正副大臣の中南米諸国出張の報告【武正副大臣】

配布資料に沿って説明。

3 福山副大臣の上海万博，NPT運用検討会議出席，及び，米国出張の報告【福山副大臣】

配布資料に沿って説明。

4 西村大臣政務官の第16回 SAARC 首脳会議出席及びサモア、フィジー、ソロモン出張の報告【西村大臣政務官】

配布資料に沿って説明。

第2 質疑応答

1 岡田外務大臣の南アフリカ，タンザニア出張の報告

(質問・コメント)

- ・ T I C A Dの存在感が薄れている。今後どのようにT I C A Dを盛り立て、日本のプレゼンスを上げていくのか。
- ・ 現地で活動している草の根N G Oや企業等との連携を深めていく考えはあるか。ソーシャル・ビジネスを後押しする戦略如何。
- ・ アフリカに対する直接投資，観光をどのようにして増加させるのか。資源確保に向けた戦略如何。
- ・ アフリカで存在感を増している中国についてどのように考えるか。

(回答：岡田外務大臣)

- ・ 中国の存在感が増し、日本のODAが減っていることは事実であるが、日本は「約束を守る国」という高い評価を得ている。今回の閣僚級フォローアップ会合に30名以上の閣僚級が参加したこと自体が日本への期待のあらわれ。また、現地住民とともに開発に取り組む等評価されている。今後も資金を確保しつつ、日本らしい援助を展開していきたい。
- ・ 今回のフォローアップ会合にはNGOにも参加いただいた。今後連携を深めていきたい。
- ・ アフリカは遠いが寝ていれば着く。ワールドカップや大自然は魅力。議員ツアーをやったらどうか。
- ・ アフリカの経済成長なくしてMDGsの達成は難しく、経済成長のためにアフリカへの直接投資を増加させることが重要。インフラ整備に力を入れ、投資を呼び込む等日本企業のアフリカ進出を後押しする流れをつくりたい。
- ・ 中国はアフリカにおいて存在感を増している一方で、中国の進出のやり方に対する警戒感も存在する。ただ、中国の進出がアフリカの経済成長に寄与していることも事実。中国に国際的なルールに従うよう促していくとともに、日中で協力した援助を検討することも必要。

2 中南米、アフリカ、資源外交

(質問・コメント)

- ・ 中南米、アフリカは資源・食料確保の観点から重要。日本として何を求めるのかを戦略を示すことが重要。

(回答：武正副大臣 / 吉良大臣政務官)

- ・ ベネズエラのような重要な資源国に加え、パナマの銅山の入札に日本企業が関心を示すなど中米にも資源は存在。ベネズエラは急進左派政権であり、石油を外交の切り札として使って影響力を拡大しているが、こうした国との関係をどうするか。ODAが減っている中、何ができるか工夫のしどころ。先般、ハイチに約1億ドルの支援を行うことを表明したが、中米諸国も災害が多い。アジアで津波の警戒システムの整備に協力したように、SICA(中米統合機構)とも災害予防で連携できるのではないか。(武正副大臣)
- ・ ベネズエラでは労働争議による操業停止、国有化問題、外貨発給遅延問題などで日本企業が苦しんでおり、武正副大臣から先方政府に対処を申し入れた。成長戦略、パッケージ型インフラ海外展開など前にいく話ばかりにスポットライトが当たりがちであるが、外貨の割り当て、資本比率の変更等のトラブルがあった時にどう対処するかが企業にとっては大きな問題。各国で生じているこうした問題解決に向け、政府がいかに支援するかを考えることが重要との認識を共有したい。(吉良大臣政務官)

3 NPT運用検討会議

(質問・コメント)

- ・ 福山副大臣によるNPT運用検討会議での演説において、イラン大統領の発言に反論している部分があるが、いかなる経緯があったのか。
- ・ 被爆者の高齢化が進む中、これらの被爆者を支援し、被爆の実相をきちんと伝えていくことは我が国としての責務であると考えるが、政府としていかなる支援を行っているのか。

(回答：福山副大臣)

- ・ アフマディネジャード・イラン大統領の演説の中で、「独、伊、日本及びオランダを含む、米国及びその同盟国にある米軍基地に配備された核兵器の解体が必要。」との発言があったことを受け、自分(福山副大臣)のステートメントにおいて、我が国として非核三原則を堅持していくことを強調する旨述べたもの。
- ・ 自分(福山副大臣)は、被爆者との懇談に加え、我が国政府が支援する爆心地復元CG上映会等にも参加したが、現場においてこのような市民社会の取組に対し政府としても協力したいと申し上げてきた。こうしたことを含め、被爆の実相を国際社会に広めていく取組をしっかりとやっていきたい。

4 外相等の外国出張，政府専用機

(質問・コメント)

- ・ 外相の外遊には、国の内外に対するPR効果があるが、国内に縛られすぎ。それについてどのように考えるか。
- ・ 商用機での移動では、空港等での待ち時間が多く、効率的ではないのではないか。政府専用機の体制を見直す必要はないか。

(回答：岡田大臣)

- ・ 米国、中国、韓国等と比べても、我が国の閣僚は外遊できる期間が短い。外遊を長期間できるように、与野党間で話し合っていきたい。
- ・ 政府専用機を増加させることは、現下の厳しい財政状況では簡単ではない。ただ、現在のジャンボ2機体制で、常に2機を同時に飛ばすということは見直しを検討してもよいのではないかと思う。ジャンボの代わりに小型或いは中型機を導入して機数を増やすということは検討に値する。また、費用面ではチャーター機が優れているので、更に活用していくということもある。

(了)